

産地戦略

実施主体 越前しきぶタウン推進協議会
 都道府県 福井県
 対象地域 越前市、南越前町、鯖江市
 対象品目 キュウリ（施設）

実施期間 令和7～11年度



新たに取り入れる環境にやさしい栽培技術の分類

化学農薬の使用量の低減	温室効果ガスの削減（水田からのメタンの排出削減）	温室効果ガスの削減（プラスチック被覆肥料対策）
● 化学肥料の使用量の低減	温室効果ガスの削減（バイオ炭の農地施用）	温室効果ガスの削減（省資源化）
有機農業の取組面積拡大	温室効果ガスの削減（石油由来資材からの転換）	温室効果ガスの削減（その他）

目指す姿

丹南管内では、特に追肥については肥効が早く出やすい化学肥料の使用が多用され、環境に配慮した栽培体系が確立されていない状況となっている。また、キュウリは収穫と管理を平行して進めなければならない、防除が遅れ、収量を落とす事例も少なくない。このため、防除の省力化が課題となっている。また、夏季高温が収量・品質を落としており、省力的な昇温防止対策が求められている。このため、環境にやさしい栽培方法と人にやさしい防除および昇温防止対策を普及させ、産地の維持発展を図る。

現在の栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	○	□	□	□	□	□	□	□	□	□			○定植、□収穫 ■追肥 ×防除 ●寒冷紗被覆
技術名		化学肥料主体の追肥 動力噴霧器による防除					化学肥料主体の追肥 動力噴霧器による防除						

グリーンな栽培体系

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	備考
主な作業名	○	□	□	□	□	□	□	□	□	□			○定植、□収穫 ■追肥 ×防除 ◎遮熱剤塗布と効果期間
技術名		有機液肥による追肥 常温煙霧機による防除					有機液肥による追肥 常温煙霧機による防除						

グリーンな栽培体系等の取組面積の目標

	現状R6	目標R11	備考
（参考）対象品目の作付面積（ha）	1.5	▶ 2.3	
グリーンな栽培体系の取組面積（ha）	0.2	▶ 0.4	
環境にやさしい栽培技術の取組面積（ha）	0.2	▶ 0.4	
省力化に資する技術の取組面積（ha）	0.4	▶ 0.8	

環境にやさしい栽培技術・省力化に資する技術の概要

〈技術の内容・効果〉

分類	産地の慣行	新たに取り入れる技術	期待される効果
環境	化学肥料での追肥	▶ 有機質肥料を主体とした施肥体系の導入	化学肥料由来窒素の削減
省力	動力噴霧器による防除	▶ 常温煙霧機による省力的な防除	防除作業の省力化
省力	内張り寒冷紗による遮光管理	▶ ドローンでの遮光剤塗布による遮光管理の省力化	遮光管理の省力化

〈技術の効果の指標・目指すべき水準〉

分類	指標	現状	目指すべき水準	備考
環境	化学肥料による追肥の半減	20	▶ 10	N20→10 k g/10a
省力	防除作業時間の低減	3	▶ 1	3hr→1hr/10a/回
省力	遮光管理作業時間の低減	30	▶ 1	30hr→1hr/10a
			▶	

* 環境にやさしい栽培技術のうち化学農薬・化学肥料の使用量の低減および省力化に資する技術については、原則、検証結果を踏まえて効果の指標・達成すべき水準を設定する（有機農業の取組面積拡大、温室効果ガスの削減に資する技術については、当該欄の記載は任意とする）

* 化学農薬の使用量の低減については、どの剤の使用量を削減するのか、どの剤からどの剤へ切り替えるのかが分かるように記載する

グリーンな栽培体系の普及・定着に向けた取組方針

実証圃の設置、実証圃の見学、講習会での実証結果の報告、栽培マニュアルの配布（HP掲載）、市・町による助成制度の検討・創設

関係者の役割

関係者名	キュウリ生産者	JA越前たけふ	越前市・南越前町・鯖江市	県丹南農林総合事務所
役割	実証圃管理、技術導入	農業者との連絡調整、技術普及	助成制度、情報発信	実証圃調査、技術普及

その他